会員たより

Vol.14 No. 4 2021.2.8



〒596-0053 岸和田市沼町 29-5 岸繊維産業㈱内

http://www.curtainjp.com

2020 年カーテン購入金額は

一世帯 (2人以上) 当たり 1,436 円

出典:総務省2020年家計調査より

stat.go.jp/data/kakei/2020np/index.html

外出自粛が広がり、旅行や外食、衣料品への支出が 大きく落ち込んだ。一方「巣ごもり消費」は拡大し た。カーテンの購入状況は以下の通りです。

■全国平均カーテン支出金額推移(単位:円)

	H29	H30	R1	R2
支出	1,457	1,245	1,384	1,436

■地方別カーテン支出金額(単位:円)

	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *					
	H29	H30	R1	R2		
北海道	1,258	788	750	1,605		
東北	1,955	991	2,270	1,074		
関東	1,474	1,420	1,442	1,464		
北陸	757	842	1,462	1,362		
東海	915	1,377	1,996	1,086		
近畿	1,697	646	914	922		
中国	1,097	1,015	1,217	4,103		
四国	1,248	1,572	1,340	1,065		
九州	1,997	2,052	1,015	1,379		
沖縄	862	631	943	1,346		

■月別カーテン支出金額(単位:円)

<u> </u>	, - XIII (I I I I I I I I I I I I I I I I				
	H29	H30	R1	R2	
1月	81	130	67	74	
2 月	80	55	93	76	
3 月	112	126	137	97	
4 月	92	138	117	85	
5月	53	85	106	85	
6 月	51	99	86	169	
7月	91	105	121	157	
8 月	235	62	112	213	
9月	136	81	187	95	
10 月	149	84	91	140	
11 月	255	127	90	123	
12 月	123	123	176	122	

■100 世帯当たりの購入頻度(単位:回)

	H29	H30	R1	R2
支出	22	23	25	27

■年間収入5分位階級別カーテン支出金額(円)

収入	~342万	~456万	~601万	~833万	833 以上
H29	674	1,470	1,043	1,648	2,450
H30	965	1,025	1,012	1,429	1,795
R1	658	939	1,563	1,559	2,200
R2	889	1,464	1,248	1,809	1,768

■世帯主年齢別カーテン支出金額(単位:円)

	~29	~39	~49	~ 59	~69	70~
H29	424	1,364	1,377	1,384	1,510	1,591
H30	584	838	1,133	1,634	1,427	1,119
R1	1,282	1,180	1,190	1,860	1,972	883
R2	928	1,883	1,427	1,613	1,673	1,088

■都道府県庁所在地及び大都市の 2020 年カーテン 支出金額上位都市(単位:円)

松江市	8,065	千葉市	2,616
甲府市	5,814	浜松市	2,508
広島市	4,579	山形市	2,320
高松市	3,714	鹿児島市	2,316
大津市	3,677	宇都宮市	2,293

《参考》

■2020 年 12 月の消費行動に大きな影響がみられた主な品目(前年同月対比)

食料: 冷凍調理食品 32.7%、チューハイカクテル 26.6%、飲酒代▲81.8%、食事代▲19.9%

家具・家事:他の冷房用器具(加湿器、空気清浄機を含む)56.7%

保健医療:保健用消耗品(マスク、ガーゼ含む)

交通・通信: 航空運賃▲92.9%、鉄道運賃▲66.1% バス代▲60.9%

教養娯楽:ゲームソフト等 30.1%、インターネット接続料 6.3%、遊園地▲81.2%、パック旅行費▲80.1%、文化施設入場料▲58.7%

■家計調査の仕組み

・調査世帯の選定は?

全国 168 市町村から 8076 世帯 (二人以上) を統計手法により偏りを配慮し全国の世帯全体の縮図にできるだけ近くなるように調査対象世帯を選定されています。

・データの見方の注意!

標準誤差は、対象世帯の少ない世帯区分についての集計結果(人口5万未満の市や町村)や、<u>購入頻度の少ない品目((耐久消費財、カーテン)への支出額の数字などは、標本誤差が大きくなりがちです。</u>このような数字を見る場合には、標本誤差の影響を少なくするために、1か月分の数字だけでなく複数の月にわたり平均した数字を利用したり、あるいは、他の世帯区分や類似する品目と合算した数字を使用するなど、利用上の工夫が必要です。